

Let's Know Hiroshima Castle.

# しろや！ 広島城



No.80

## 城を守った水制工



左：図1 白島の水制工 右：図2 本川東岸（広島城西側）の水制工  
図1・2とも、『芸藩輯要付図』『藩政時代広島城明細図』（文久3年）より  
※●は水制工が描かれている箇所

「水制工」は川の流れが急な場所の河岸に設けられるもので、水剝とも呼ばれています。多くの場合、河岸から垂直に川に向かって設けられます。洪水時に川の流れを弱めたり、直接堤防に水がぶつからないように水の流れを中央方向に向けたりして、河岸が削られるのを防ぎます。

江戸時代の広島城下でも水制工が多く設けられていた場所があり、例えば白島地区の本川および京橋川河岸です。図1は文久3年（1863）の広島城下を描いた絵図の一部で、白島地区を描いており、河岸に多くの水制工が設けられてい

る様子うかがえます。ここは川の分流地点で、河岸の堤が決壊しやすい場所でした。ここが決壊すると、南側にある城と城下町が水浸しになってしまいます。そのため、そもそも堤がとても高く頑丈に造られたのですが、さらに水制工を設けて決壊を防いだのでしょう。

さらに広島城の西側で城の外堀の役割を果たしていた本川の河岸です。この場所は本川が大きく蛇行している場所であり、河岸が水流の力を受けやすかったのかもしれませんが、図2も文久3年の広島城下を描いた絵図の一部ですが、

多くの水制工が設けられている様子がうかがえます。河岸に設けられていた広島城の櫓や土塁を守る為と思われます。

図3は広島城と城下町を西側上空から鳥瞰したかたちで描かれた「芸州広島図」の一部です。広島城とともに、画面右下には2つ水制工が描かれていますが、これは図2のA地点にあたります。船着き場としても使われていたこの水制工はとりわけ大きく、そのため「芸州広島図」にしっかりと描き込まれたのでしょう。

図4は昭和20年(1945)7月25日、被爆直前に米軍によって撮影された航空写真で、図2のA地点が写っています。「芸州広島図」に描かれた水制工があり、周辺には船が着岸しており、江戸時代から引き続き船着き場として使われて

いた様子がうかがえます。明治以降、広島城内は軍用地となり、写真が撮影された時期にはこの水制工の東側(画面右側)には輜重隊の兵営がありました。この水制工の東側(画面右側)には輜重隊の兵営がありました。この水制工の東側(画面右側)には輜重隊の兵営がありました。この水制工の東側(画面右側)には輜重隊の兵営がありました。

戦後、相生橋から上流の約880m区間の本川東岸において護岸整備が行われ、この水制工も整備の対象になりました。工事は昭和54年(1979)に着手、同58年(1983)10月に完成しています。この時、水制工は水に親しむことができるテラスとして改修され、現在に至っています(図5)。

このように元々水制工だったものが生まれ変わっている事例は他にもあります。図6は仏護寺(現在の本願寺広島別院・広島市中区寺町)の裏



図3 「芸州広島図」(文化10～13年頃)より 広島城と本川東岸の雁木(赤丸印) 広島城蔵



左：図4 太田川荷物揚卸場の様子  
昭和20年7月25日 米軍撮影 国土地理院蔵  
上：図5 親水テラスに生まれ変わった水制工  
NPO 法人雁木組データ提供



手、本川西岸にあった水制工の様子です。本川と天満川の分岐点に近い場所で、そのやや下流側にある仏護寺を守るかのように大きな水制工が設けられています。これは、現在は川に突き



図6 『江山一覽図』(文化6年)より、仏護寺裏の水制工  
『新修広島市史』第2巻使用写真

出した親水テラスとして整備されています。このように市民が水に親しめるテラスにも、長い歴史を持つものがあるのです。(本田美和子)



図7 現在の水制工

**お願い!** 図6の『江山一覽図』は広島の歴史を知る上で大変貴重な資料ですが、現在行方が分からなくなっています。もし何か情報がございましたら、広島市公文書館(082-243-2583)までご連絡ください。

## 必見! 今だけの風景



令和6年(2024)2月10日、エディオンピースウイング広島のこけら落としが行われました。広島城天守から、遂に完成した美しいスタジアムが良く見えます。また内堀越しに見ると、スタジアムが堀に映って素敵です(図1)。

で、やがて門からはスタジアムが見えなくなってしまうのです。今だけの素敵な眺め、みなさん是非見に来てくださいね。(本田美和子)

そして二の丸の表御門を東から西に向かって眺めると、門越しにスタジアムが見えるのです(図2)。特に薄暮の時間帯にライトアップされたスタジアムを見ると、なかなか幻想的です。しかし、この景色は期間限定!実は令和8年(2026)にオープン予定の「広島城三の丸歴史館」の建設が令和6年度から始まるのですが、その建設予定地が表御門とスタジアムの間なの



図2 令和6年1月17日撮影  
表御門越しに見るスタジアム



図1 令和5年12月23日撮影  
内堀に映るスタジアム。クリスマスカラーにライトアップされています



図3 令和5年12月6日撮影  
御門橋とサンフレッチェカラーにライトアップされたスタジアム。表御門前から撮影。

福島正則は、慶長5年（1600）から元和5年（1619）までの約20年間にわたり、初代広島藩主として安芸・備後両国49万石余を治めた人物です。広島城の大幅な増改築、領内の検地や街道・宿場町の整備などを行い、近世広島の礎を築きました。今年は、その福島正則が没して400年の節目にあたります。

本市では、これを契機に福島正則について市民に理解を深めていただけるよう、「福島正則没後400年記念事業」として、様々な事業を実施する予定です。今回は、その一部を紹介합니다。

★福島正則関連遺跡ガイドマップ

福島正則の広島での藩政や、正則が整備した広島城の石垣など市内の正則関連の旧跡を紹介するガイドマップを11月ごろ発行します。市内の旧跡以外にも、正則が領国防備のために築いた亀居城（大竹市）など県内の6つの支城についても紹介します。正則の痕跡をマップ片手に巡ってみるのはいかがでしょうか。



広島城西側外郭櫓台跡  
本川（旧太田川）沿いに残る福島正則の時代に築かれたと考えられる櫓台石垣。

★福島正則トークイベントの開催

建築史や日本史を専門とする有識者を招いて、「福島正則」をテーマとしたトークイベントを開催します。 ※要申込

開催日：令和6年11月24日（日）

会場：JMS アステールプラザ

★広島城郭クイズラリーの実施

10月ごろから広島城跡内の城門跡などに設置した標柱・説明板を周遊するクイズラリーを実施します。すべてのクイズに回答した方に、抽選で素敵な記念品をプレゼント！

トークイベントの申し込みやクイズラリーの参加方法など、各事業についての詳細は決まり次第、広島市・広島城のホームページや、市広報紙『ひろしま市民と市政』でお知らせします（事業内容を変更する場合があります）。

（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課広島城活性化担当）



本丸東側の崩れかけた石垣  
福島正則が、武家諸法度違反を咎められた際に破却したと考えられる石垣。

しろうや  
!  
広島城

編集・発行  
公益財団法人広島市文化財団  
広島城  
〒730-0011  
広島市中区基町21-1  
電話：082-221-7512  
FAX：082-221-7519  
令和6年6月10日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00  
（12月～2月は9：00～17：00）  
入館の受付は閉館の30分前まで  
入館料：大人370円（280円） 中学生以下無料  
高校生相当・シニア（65歳以上）180円（100円）  
（ ）内は30名以上の団体料金  
休館日：12月29日～12月31日（臨時休館あり）  
ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>